

図書館管理について

文教厚生常任委員会は、図書館の管理について独自に調査を行いました。その結果を報告します。

Q. なぜ調べようと思ったの？

A. 今年の6月に「図書館の運営を民間の方をお願いしてもいいよ」という決まり（条例）ができました。それに伴い、「民間の方をお願いしても大丈夫なの」などいろいろな意見が出たので、「じゃあ調べてみよう」ということになりました。

Q. いつどこで調査をしたの？

A. 今年の7月～8月にかけて調査をしました。
本市の図書館はもちろん、指宿市、枕崎市、南さつま市の図書館に出向き、お話を伺いました。

Q. なにがわかったの？

A. 調査に伺った3市とも、民間にお願いした主な理由は、次の2点です。
①コストを削減するため
②民間の力を活かしサービスを向上させるため
実際3市とも、民間に任せた結果、図書館の管理運営費は削減されていました。
また枕崎市の「貸し出しソフト導入」や、南さつま市の「開館時間延長」、指宿市の「図書館独自の取組み増加」など、サービスの向上が見られました。3市とも、デメリット（欠点など）は感じていないとのことでした。

提言

- ①指定管理者制度導入時期（民間に任せる時期）については、平成30年4月の導入を目指しているが、これにこだわることなく、慎重かつ十分な検討を行うこと。
- ②指定管理者（お願いする民間の方）との円滑な連携が図られるよう、市の体制を確保すること。
- ③歴史的な資料については、確かな管理を継続するために十分な引継ぎを行うこと。
- ④赤ちゃん絵本プレゼント、セカンドブックプレゼント、読書のつどいの3事業と、現在行っている講座についても、自主事業として継続できるよう努めること。
- ⑤サービスの維持向上及び従事者の意欲を高めるための配慮を行うこと。

議会全員協議会

◆行政当局より議会へ説明のあった件◆

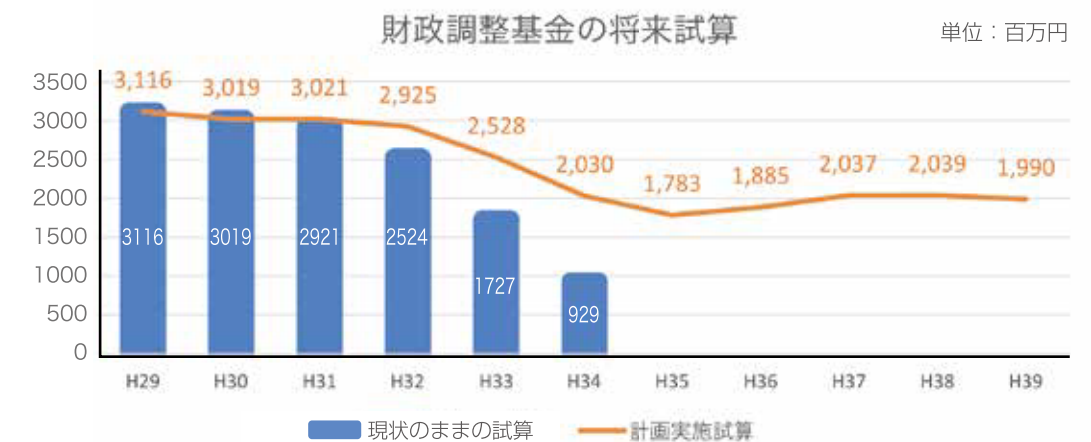
財政計画の策定 どうなる財政!?

9月29日 市財政課から議会に対して財政計画の策定について説明がありました。

市が財政の将来試算を行ったところ、このままでは平成34年度予算が組めなくなる恐れがあることがわかりました。持続可能なまちづくりの実現に向けて、市は平成30年から39年までの10年間を見据えた財政計画を策定しました。

図は、市の財政調整基金（財源不足の時に使う貯金）の試算です。棒グラフが現状のままの試算、折れ線グラフが財政計画を実施した場合の試算です。

財政計画の全文は、インターネット上で公開予定です。



集落支援員と地域づくりを！

9月12日 企画課から議会に対して、地域課題の解決について説明がありました。

人口減などにより、地域の課題を地域で解決できないことが増えてきています。そこで市は、各地区で地域課題の解決に向けて、自主的に取り組むための組織づくりの手伝いをしたいと考えています。

この事業を「コミュニティ・プラットフォーム構築事業」と呼びます。

本年9月、市は地域課題の解決を手伝ってくれる「集落支援員」を公募しました。集落支援員は、応募によって定める「モデル地区」と連携し、地域づくりをすすめてもらう予定です。

